



## みんなが 金メダル の2学期に

校長 田邊 雅也

### パリ2024 オリンピック・パラリンピック

パリ2024オリンピック・パラリンピックは、「Games Wide Open 広く開かれた大会」というコンセプトで、現在、パラリンピックが開催中です。今大会は、史上初めて、男女の出場選手数が等しくなりました。女性の参加が許されなかった1896年アテネ大会から、128年もかけて、ジェンダー平等が達成された大会となりました。

前回の東京大会では、オリンピック・パラリンピック教育が注目されました。このパリ大会でもオリンピズム(\*)を広めることが求められています。これは、オリンピックを通して、世界中の人種や文化、宗教、価値観などの多様性を尊重し、世界平和に向けて活躍できる人材を育てることが目標です。世界のウェルビーイングを実現するための人材育成と言えます。

### これは世界平和？

しかし、身近なところで、世界平和と言えないことが起こっています。SNSで、ひぼう中傷が相次ぎ、大会に向け、血のにじむような努力を積み重ねた選手たちからの悲痛な訴えが、報道されました。ひぼう中傷と相手を感じてしまっただけでは、世界平和のイメージではありません。

大人も子供も、世界中の人々が、スマートフォンやタブレットなどの端末を使うようになりました。コメントやストーリーを簡単に投稿でき、身近な人にも有名人にも、気軽に直接メッセージを送ることができます。個人の立場や経験、正義感からくる、何気ない投稿かもしれませんが、ひぼう中傷につながってしまうこともあります。

責任をもって発信しなくてはいけない時代となりました。テクノロジーの急速な進展による一人一人の情報発信力が、「だれかのため、何かのため」につながることが大切だと思います。

### Win・Win・Winの関係

オリンピックの盛り上がりの中、彩夏祭も開催されました。昨年度から再始動した朝霞六小鳴子の会も出場しました。参加した異学年集団の子供たちも、沿道で応援した子供たちも、支えてきた保護者・地域の皆さんも一体となった演舞とその応援に、今年も感動しました。

よさこいは、六小の重要な教育資源となっています。昨年度から、3年生が運動会(昨年度は体育発表会)で演舞し、さくら学級も、なかよし発表会でも披露しました。総合的な学習の時間でも、「よさこい」や「彩夏祭」というキーワードが子供たちから出てきます。多くの地域の皆様のご協力のおかげで、地域の貴重な教育資源を生かすことで、子供にも、学校にも、保護者・地域にも、Win・Win・Winの関係が見られていると感じています。

### みんなが Win、みんなが 金メダル に

昨年度の学校だよりでは、近江商人の「買い手よし、売り手よし、世間よし」の「三方よし」のある教育を目指したい、と書いたことがあります。オリンピック・パラリンピックなら、「選手よし、参加する国や地域よし、世界よし」、彩夏祭なら、「自分よし、市民よし、朝霞市よし」です。学校は、「子供よし、学校よし、保護者・地域よし」のある教育です。その中で、誰もが「Win」と感じる大切だと思います。

情報通信技術は、激しく変化し、生活に欠かすことができないものになりました。正しく使うことで大きな効果をもたらします。挑戦したり、試行錯誤したり、問題解決をしながら、努力を積み重ねることで、「みんなが金メダル」と感じる教育にしなければなりません。

### 地域に根ざしたウェルビーイングを

今年の目指す学校像は、「自律と探究 ～子供：自分で・自分から、誰かのため・何かのため、大人：社会総がかりでウェルビーイングのある教育を～」です。オリンピズムのような世界規模ではありませんが、地域に根ざしながら、「みんながWin」、「みんなが金メダル」を実感できる教育となれば、と思っています。

2学期も、夏休みで大きく成長した子供たちのために、社会総がかりで、だれもがウェルビーイングを感じる教育を、共に創っていけたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

※オリンピズム

…フランスの教育者ピエール・ド・クーベルタン男爵が提唱。スポーツを通して心身を向上させ、さらには、文化・国籍など様々な差異を超え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって理解し合うことで、平和でよりよい世界の実現に貢献すること。この理念は今も「オリンピズムの根本原則」に引き継がれている。